

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 21年4月－輸出は前年比で急増も、基調としては増勢ペースが鈍化

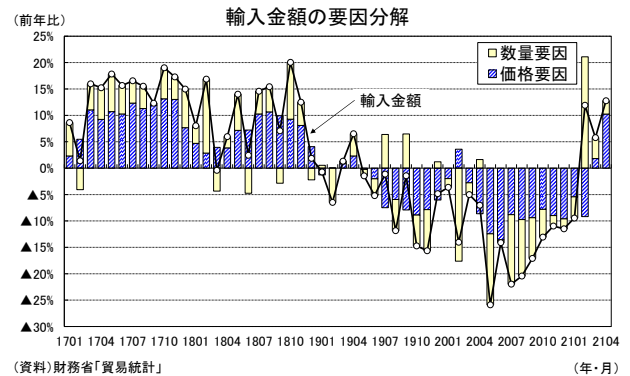
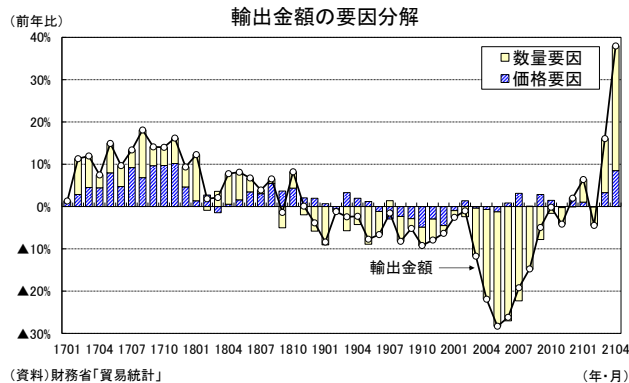
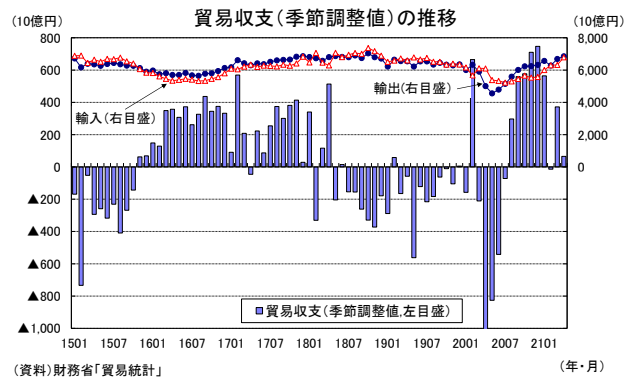
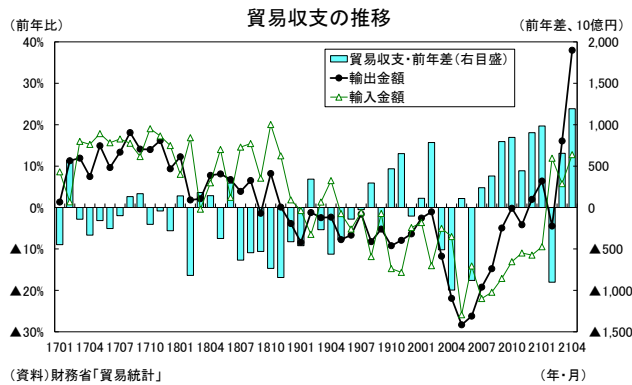
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 前年の反動で輸出が高い伸び

財務省が5月20日に公表した貿易統計によると、21年4月の貿易収支は2,553億円の黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：1,438億円、当社予想は2,518億円）を若干上回る結果となった。輸出が、コロナ禍で前年に急速に落ち込んだ（20年4月：前年比▲21.9%）裏が出る形で、前年比38.0%（3月：同16.1%）の大幅な増加となり、輸入の伸び（前年比12.8%）を大きく上回ったことから、貿易収支は前年に比べ11,923億円の改善となった。

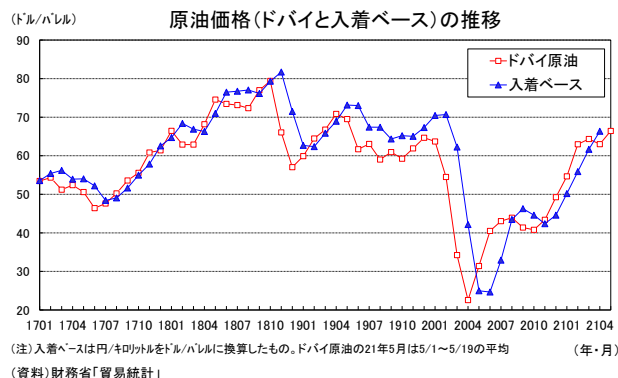
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比28.4%（3月：同12.6%）、輸出価格が前年比7.4%（3月：同3.1%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比2.4%（3月：同3.9%）、輸入価格が前年比10.1%（3月：同1.8%）であった。



季節調整値の貿易収支は652億円と2ヵ月連続の黒字となったが、3月の3,719億円から黒字幅

が縮小した。輸出は前月比 2.5%の増加となったが、原油高の影響で輸入が同 7.5%の高い伸びとなったことが黒字の縮小につながった。

4月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル＝66.4ドル（当研究所による試算値）となり、3月の61.7ドルから上昇した。足もとの原油価格（ドバイ）は60ドル台半ばとなっており、通関ベースの原油価格は5月以降も60ドル台半ばから後半で推移することが見込まれる。

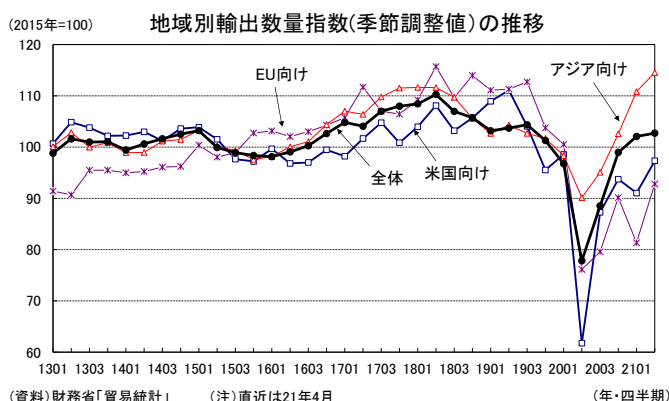


## 2. 輸出の増勢ペースは鈍化

21年4月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 37.8%（3月：同 3.9%）、EU向けが前年比 12.7%（3月：同▲6.9%）、アジア向けが前年比 23.0%（3月：同 20.4%）、うち中国向けが前年比 29.3%（3月：同 40.7%）となった。

21年4月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前月比 3.1%（3月：同 6.6%）、EU向けが前月比▲1.0%（3月：同 23.2%）、アジア向けが前月比 1.7%（3月：同 10.1%）、中国向けが前月比 2.2%（3月：同 15.9%）、全体では前月比▲1.7%（3月：同 6.1%）となった。4月の水準を1-3月期と比較すると、米国向けが 6.9%、EU向けが 14.1%、アジア向けが 3.4%（うち中国向けが 3.5%）、全体では 0.6%高くなっている。米国、EU向けの水準が高いが、これは1-3月期の反動によるもので、基調としては中国向けを中心としたアジア向けが引き続き輸出の牽引役となっている。

輸出は全体としては20年夏場以降の増加傾向を維持しているが、すでにコロナ前の水準を回復していることもあり、そのペースは鈍化していると判断される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。